

古文 品詞分解（動詞・助動詞） 「竹取物語 〽ふじの山〽」 問題

中将、人々^①引きぐして^②帰りまゐりて、かぐや姫を、え^③戦ひ止め^アず^④なり^イぬる事、

こまごまと^⑤奏す。薬の壺に御文^⑥そへ、^⑦参らす。^⑧ひろげて^⑨御覽じて、

いといたく^⑩あはれがら^ウせ給ひて、物も^⑪聞こしめさ^エず。御遊びなどもなかり^オけり。

大臣、上達部を^⑫召して、「いづれの山か天に近き」と^⑬問は^カせ給ふに、^⑭ある人^⑮奏す。

「駿河の国に^⑯ある^キなる山なん、この都も近く、天も近く^⑰侍る」と^⑱奏す。

これを^⑲聞か^クせ給ひて、

^⑳逢ふことも涙に ^㉑うかぶ我身には ^㉒死な^ケぬくすりも何にかは^㉓せ^コむ

かの^㉔奉る不死の薬壺に文^㉕具して、御使ひに^㉖たまはす。勅使には、

調石笠と^㉗言ふ人を^㉘召して、駿河の国に^㉙あ^サなる山の頂に^㉚持てつく^シべきよし^㉛仰せ給ふ。

嶺にて^㉜す^スべきやう^㉝教へ^セさせ給ふ。御文、不死の薬の壺^㉞ならべて、

火を^㉟つけて^㊱燃やす^ッべきよし^㊲仰せ給ふ。そのよし^㊳承りて、

つはものどもあまた^㊴具して山へ^㊵登り^タけるよりなん、その山をふじの山とは^㊶名づけ^チける。

その煙いまだ雲のなかへ^㊷立ち上るとぞ^㊸言ひ伝へ^ッたる。

古文 品詞分解（動詞・助動詞） 「竹取物語 〽ふじの山〽」 解答

中将、人々^①引きぐして^②帰りまゐりて、かぐや姫を、え^③戦ひ止め^アず^④なりイぬる事、

こまごまと^⑤奏す。葉の壺に御文^⑥そへ、^⑦参らす。⑧ひろげて^⑨御覽じて、

いといたく^⑩あはれがら^ウせ給ひて、物も^⑪聞こしめさ^エず。御遊びなどもなかり^オけり。

大臣、上達部を^⑫召して、「いづれの山か天に近き」と^⑬問はかせ給ふに、^⑭ある人^⑮奏す、

「駿河の国に^⑯ある^キなる山なん、この都も近く、天も近く^⑰侍る」と^⑱奏す。

これを^⑲聞か^クせ給ひて、

^⑳逢ふことも涙に^㉑うかぶ我身には^㉒死な^ケぬくすりも何にかは^㉓せ^コむ

かの^㉔奉る不死の葉壺に文^㉕具して、御使ひに^㉖たまはす。勅使には、

調石笠と^㉗言ふ人を^㉘召して、駿河の国に^㉙あ^サなる山の頂に^㉚持てつく^シべきよし^㉛仰せ給ふ。

嶺にて^㉜す^スべきやう^㉝教へ^セさせ給ふ。御文、不死の葉の壺^㉞ならべて、

火を^㉟つけて^㊱燃やす^ンべきよし^㊲仰せ給ふ。そのよし^㊳承りて、

つはものどもあまた^㊴具して山へ^㊵登り^タけるよりなん、その山をふじの山とは^㊶名づけ^テける。

その煙いまだ雲のなかへ^㊷立ち上るとぞ^㊸言ひ伝へ^ッたる。